
8. 閉会あいさつ



国立国会図書館関西館長事務代理
石川 武敏

国立国会図書館関西館長事務代理の石川です。本日は年度末の非常にお忙しい中、御足元が悪い中、第 19 回総合目録ネットワーク事業フォーラムに大勢お集りいただきましてありがとうございました。また、日頃から総合目録ネットワーク事業に御協力頂きまして、感謝申し上げます。

さきほど図書館協力課長の佐藤から報告したとおり、今年は総合目録ネットワークにとって一大変革期となりました。システム移行に当たっては、データ提供館をはじめ事業参加館には大変な御協力を頂きまして、本当にありがとうございました。おかげさまをもちまして今年の 1 月に新システムでの提供に漕ぎつけました。先ほど小澤と光島から国立国会図書館サーチとその中における総合目録機能について報告をしたところですが、説明にもありましたようにまだまだ発展途上のシステムでございます。是非皆様の忌憚のない御意見をお寄せ下さい。本日の質疑でも完全一致の検索の件、また NDL サーチと NDL-OPAC の違いについて御意見を頂きましたので、これらにつきましては真摯に受け止めて今後の事業展開に活かしていきたいと思っております。

さて、本日は井上様から、大学における図書館教育の経験に基づいた基調講演をいただきました。紙媒体の時代における目録との接し方が今の時代の情報の扱い方に生きているという点が私のような世代には同感できる点が多く感動いたしました。紙の時代を知っている者は目録検索を体で覚えているのですけれども、そのような経験がない若い人たちには、そこを補ってあげるようなシステム上の手当が必要なのかなと今日のお話を聞いて感じました。重要な課題を与えられたと思っております。

平成 24 年 3 月 9 日（金）
第 19 回総合目録ネットワーク事業フォーラム
記録集

それから参加館の報告では、埼玉県立の立花様、滋賀県立の福田様、御二方とも相互貸借の実務に基づいた貴重なお話ありがとうございました。

立花様のお話では、やはりシステムとサービスの折り合いが大切だということで、ここでも図書館員の働きがキーポイントになるように思いました。

福田様のお話では、実務委員会における厳しい議論を重ねて県内相互貸借試行の合意にもっていった県立図書館の努力に敬意を表したいと思います。そのような地道な努力を続けていけば県内の連携が発展することは間違いないと確信いたしました。

この後も交流会の方でも質疑などして頂ければと思います。本日はどうもありがとうございました。